

1. 件名: 玄海原子力発電所原子炉施設保安規定変更認可申請(3号炉の高経年化技術評価等)に関する
事業者ヒアリング

2. 日時: 令和6年1月25日(木) 10時30分~11時20分

3. 場所: 原子力規制庁 9階 B 会議室(※一部TV会議システムによる出席)

4. 出席者:

原子力規制庁

原子力規制部審査グループ

実用炉審査部門

雨夜上席安全審査官、日高安全審査専門職、藤川安全審査官、鈴木技術参与
長官官房技術基盤グループ

システム安全研究部門

水田技術研究調査官、河野技術参与

九州電力株式会社

原子力発電本部 原子力経年対策グループ長 他 計11名

5. 自動文字起こし結果

別紙のとおり

※※音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

6. その他

提出資料:

・資料1 余熱除去系統配管の高サイクル熱疲労の評価用過渡回数について

以上

時間	自動文字起こし結果
0:00:00	西尾規制庁のフジカワですそれでは委員会原子力発電所 30 年 PLM のヒアリングを開始します。
0:00:11	原子力規制庁のミズタでサノ音声聞こえてますでしょうか。
0:00:16	交際前回会合の
0:00:20	はい。
0:00:21	九州電力のセンミョウです。ちょっと音声聞こえづらいんですけども、もう少しちょっとマイクの位置を書きいただけるとありがたいです。すみません、原子力規制庁のミズタですこれ音声大丈夫ですか。
0:00:33	はい。明瞭に聞こえております。前回会合資料高サイクル熱疲労評価の過渡回数に関する資料のページ、5 ページ、右肩 5 ページ目のなんですけれども、
0:00:44	玄海 3 号炉のこのフォーマットで、
0:00:48	実績過渡回数と試運転の回数等から、評価用過渡回数っていうのが表では示されてるんですけどこの、例えばこの RHR フラッシュで対策導入前の回数っていうのは、
0:01:00	これ実績と、
0:01:02	実績過渡回数があるって、この残りの経平均過渡回数と残りの年数からどのように計算するのかっていうところをまず教えていただきたいです。
0:01:14	はい。九州電力のセンミョウです。
0:01:20	西郷の高サイクル熱疲労評価の片対数の 5 ページでございますけれども、玄海 3 号炉のフォーマットの一番右側、評価用過渡回数で、
0:01:31	RHR フラッシュ対策導入前導入後、こちらを立ち足し合わせたものが、60 年時点の推定過渡回数になるんですけれども、
0:01:43	RHR フラッシュ対策の導入前の回数はですね、この実績過渡回数等を含んでおましてちょっとこの表では、わかりづらいところがございますので、
0:01:56	ちょっと紙資料をまとめているものがありますのでそちらで共有させていただいて回答させていただいてもよろしいでしょうか。はい。
0:02:08	はいよろしく願いますそれは今見せて今後、今日、
0:02:13	お願いします。
0:02:16	はい。H 少々お待ちください。
0:03:31	九州電力の清宮です。ちょっと今、衛藤画面に共有させていただいておりますけれども、こちらへと確認できますでしょうか。規制庁の水谷さんが見えております。
0:03:43	はい。今ご質問があったのは運転開始後 60 年時点の推定過渡回数、こちらのカタカイ数がどのように算出されているかというご質問だったと思います。
0:03:58	ちょっと社内でも、わかりやすくですねちょっと資料整理してございますので、こちらの資料で説明させていただきます。

0:04:07	今画面に記載しております、表がございますが、こちらが評価書に記載しているカタカイ数になります。
0:04:19	こちらの余熱除去系統配管の高サイクル熱疲労割れにも地表の評価に用いた過渡回数として、2019年3月末時点の過渡回数と、
0:04:31	運転開始後60年時点での推定値を記載してございます。その下にですね、こちらの絵のちょっと概略なんですけどどう、どのように算出しているかというところを、
0:04:44	下の絵のイメージと、そしてあと過渡回数の算出条件という表がございますちょっとこちら見えておりますかね
0:04:52	下の表がですね、当会合の説明した5ページの玄海3号炉のフォーマット等に対応した形となっております。
0:05:05	で、カタカイ数のイメージの図をご覧いただきたいんですけども、こちら、バイパス、余熱RHR系統の配管の取りかえ工事を実施しております、
0:05:19	その取替工事から、評価時点であります、2019年3月末時点までA-A回数、こちらが過渡回数としては①と⑤と記載してございます。
0:05:34	①タテ⑤というのが何なのかといいますと、下の過渡回数の算出条件のところに書いてございます。実績の当然この取りかえが、
0:05:47	取りかえ後の排パンの実際に受けた過渡回数であと試運転の過渡回数こちら試運転は取りかえてからず行っておりませんので0でございませすけれども、
0:05:59	実績としては2019年3月末までに、
0:06:04	実績回数が、の方が繰り返されたというものになります。
0:06:10	2019年3月末からは、これまでの平均の過渡回数、こちら、算出条件で言いますと平均カトウ回数1年当たり何回というそれぞれのカトウ、
0:06:24	事象に対して、数値がございますけれども、その数値に余裕1.5を考慮して、今後60年間、
0:06:34	カトウが繰り返した場合に、どれぐらいの方になるのかっていうところで、1.5の余裕、この黄色ハッチングの部分になりますけれども、
0:06:44	その余裕を加えたもので60年時点の過渡回数を推定してございます。
0:06:52	ちょっとここでわかりにくいんですけども、RHR対策フラッシュ対策、導入前と導入後、こちら、RHRフラッシュ対策を導入したのが、
0:07:02	2019年3月末以降でございまして、そちらを導入時期をちょっと分けた記載ということで、過渡回数の算出条件では、残りの年数を、のところを、
0:07:15	一つに分けてございます。
0:07:18	イメージとしてはこちらの図になりまして、それぞれ下の算出条件、どういった意味を持つのかというのをちょっと次のページにまとめてございます。

0:07:33	実績過渡回数なんですけれども、まず実績過渡回数というのは、RHRの冷却器出口、バイパスラインの合流部の取替工事、10 回定検に行っておりますので、
0:07:48	その 10 回定期検査から、評価時点の 2019 年 3 月までの実績の回数を示してございます。
0:07:58	平均過渡回数なんですけれども、こちらは、エミ取替機器の 1 年間当たりの平均過渡回数でございまして、2019 年 3 月末までの実績を、それまでの年数で除した回数となります。
0:08:12	こちらにつきましては、試運転であったり長期停止期間中、こちらの期間を除いたものとして算出してございます。
0:08:22	残りの年数なんですけれども、残りのれん数が、当然、2019 年 3 月末評価時点から、
0:08:33	60 運転開始後 60 年時点までの、評価した時点から、60 年末まで残り何年あるかというものは、
0:08:43	残りの練習として示してございます。ただしですね、フラッシュ対策といいますが、プラントの起動時、停止時、あと漏えい試験時で、
0:08:54	その導入した時期が異なりますので、そこがカットに分けて記載してございます。
0:09:04	その下の表にちょっと記載してあるんですけども、
0:09:09	2019 年 3 月末時点で、
0:09:13	取りアノ松末時点から、運転開始後 60 年時点まで、残り年数としては、35.1 年、全部でございます。
0:09:27	ただし、下にちょっと二つ、停止時と漏えい試験時で分けて記載しているんですけども、
0:09:36	停止時をフラッシュ対策導入したのがですね、第 14 回定検のときでございまして、
0:09:43	軌道漏えい試験時のフラッシュ対策導入時期は、15 回定検のときでございまして、
0:09:50	よって、RHRフラッシュ対策の導入の前と導入の後の期間がそれぞれ、停止時と機能漏えい試験値で異なってます。
0:10:01	35.1 年を、そのRHR対策、フラッシュ対策、
0:10:07	導入前後で分けると、停止時は、RHRフラッシュ対策のぬ前が 0.2 年、導入後が 34.9 年。
0:10:18	起動漏えい試験時につきましては、2019 年 3 月末から導入前までが 1.7 年。
0:10:25	導入後が 33.4 年ということで、ちょっとカトウごとに異なっているという状況です。
0:10:33	5 番目試運転での過渡回数なんですけれども、こちらへと取替工事を行ってから終点の実績はございませんので 0 でございます。
0:10:42	今ご質問の回答になるかと思うんですけども、評価用過渡回数をどのように算出しているかっていうところ聾啞だと思っておりますけれども、

0:10:53	こちら二つに分けて大きく分けて算出してございます。
0:11:00	まずRHRフラッシュ対策導入前につきましては、配管取替工事からRHRフラッシュ対策導入前までの、
0:11:11	推定過渡実績になってございまして、こちらはですね、ちょっと前のイメージのところをちょっと見たら、
0:11:22	わかりやすいと思うんですけども、
0:11:24	RHR+対策導入前の回数というのは、この図で言いますと左側、⑥番に該当します。
0:11:34	この⑥番と申しますのは、①番と⑤番、こちらが実績ですね、取りかえてから、評価時点までの実績を含んだ回数となっております、
0:11:47	残り、ちょっと時期明日の時間軸で言いますと、2019年3月末からRHRフラッシュ対策までの期間、③番ですね。
0:12:00	そちらの期間に、下、考えられる過渡回数を足したものにございまして、6番というのは、①と⑤多数、
0:12:12	年平均過渡回数に、③の期間をかけて、さらに1.5を余裕を掛けたものとなっております。
0:12:23	具体的には次のページの6番のところにちょっと数式、ちょっと番号でちょっとわかりにくいかもしれないんですけども記載してございまして、①立つ⑤、
0:12:33	こちらが実績で実際に2019年3月末までに受けたかと。
0:12:39	その回数多数、2019年以降、RHR+対策が導入するまで、受けるであろうかというのが、年平均過渡回数と、
0:12:53	ね、RHR+対策導入までの期間と余裕1.5を掛けたものを足し合わせたものです。
0:13:01	先ほど申し上げましたように、RHR+対策というのが停止と、起動漏えい試験で異なっておりますので、それぞれ計算しますと、
0:13:12	起動は7回、停止は5回となっております、保守的にですね、停止を軌道にあわせる7回、
0:13:23	として頭カタカイ数、記載してございます。
0:13:28	同じ、同じ計算式ですね、漏えい試験の過渡回数も計算しますと7回となります。
0:13:36	続きまして、評価用過渡回数、RHR+対策導入後になります。
0:13:44	こちらですね、前のグラフィックで言いますと、左側、回数ですけど707番のところになります。
0:13:54	⑦番のところは、意味するところはRHRSフラッシュ対策導入した時点から、60年時点まで、期間としては④番。
0:14:05	④番の期間にどれだけカウが想定されるかという回数を想定してございます。
0:14:12	こちらの算出を、平均過渡回数、2、残りの年数、④をかけて、さらに1.5を乗じたものとなっております。
0:14:25	そちらが次のページの⑦番に数式記載してございます。

0:14:32	Aな⑦番の、RHRフラッシュ対策導入後のオフィスですけれども、②②が、平均過渡回数掛ける04、RHR対策導入後からの残りの年数。
0:14:46	さらに1.5を用いて算出させていただきます。
0:14:51	こちらを用いて算出しますと、起動は35回、停止は36回となりまして、こちらも保守的にですねもう停止に合わせて、
0:15:02	36回というものを表に記載させていただきます。
0:15:06	同じ式で漏えい試験を計算しますと、37回となります。
0:15:12	このように算出したものが、前のページの3過渡回数の算出条件の一番右側ですね、評価用過渡回数で、
0:15:23	RHRフラッシュ対策導入前後、それぞれありまして、これらを足し合わせたものが、運転開始後60年時点での推定値、評価書に、
0:15:34	今回ちょっと誤記を起こしてしまったので、徒歩、修正する箇所でございますけれども、そちらの回数になります。
0:15:44	ちょっとすみません資料9で起こりにくかったかもしれませんが、説明は以上となります。
0:15:50	両方。
0:15:53	規制庁の水田ですご説明ありがとうございましたと、この資料でその算出回数というのをやり求め方ってのがよくわかりましたので、やっぱり会合の5ページだけの資料じゃちょっと回数出せ、出すのはちょっとわかりにくいのでこの資料の内容エッセンス等何か
0:16:10	補足説明資料に加えていただければというふうに考えておりますがいかがでしょうか。
0:16:17	はい。九州電力のセンミョウです。承知しました。こちらにつきましては、補足説明資料に加えるとしたら共通事項のですね、
0:16:29	補足説明資料に、別紙の8のところに高サイクル熱疲労ありに関する説明のところがございますので、そちらに追加した形で提出しようと考えております。
0:17:10	規制庁のミズタです低サイクル疲労の方の別紙にアノコウサイクル関係するところがあったと思うんですけれどもそっちの方に記載していただく方がこの話の流れとしてはいいのかなというふうに思ってるんですけどいかがでしょうか。
0:17:40	少々お待ちください。
0:19:36	お渡ししました九州電力の清宮です。今、低サイクル疲労の補足に、その高サイクルのことが記載されているというのは、
0:19:47	別紙の2-Aという認識でしょうか、規制庁の水谷さんの別紙2ですね。
0:19:57	こちらは別紙2につきましてはタイトルに記載の通り建設に高齢者に低サイクル応力変動の抽出プロセスについてということで、
0:20:08	中身については確かにその高サイクル熱疲労に関する指針とか記載があるにはあるんですけれども、今回高サイクル熱疲労割れの実回数、
0:20:23	もうというところで、

0:20:26	ちょっと、
0:20:29	今イメージしてるのがその共通の別紙の 8 にですね、高サイクル熱廣井割れに関する説明ということで、ターボポンプ、炉内構造物等の高サイクル疲労割れの項目がありますのでちょっとそちらをイメージしてたんですけども、
0:20:46	別紙、この経済部の方の方が、に添付した方が良いという、主趣旨でしょうか。
0:21:25	規制庁の水田です今もちょっともう 1 回見直して、共通でもいいのかなというふうには思うので共通の別紙に書いていただいても大丈夫だとは思いますが。
0:21:37	承知しました。ちょっとこちらでも今確認したところ、共通事項の別紙の 8 がちょうど高サイクル熱疲労割れに関する説明でございますので、
0:21:51	そちらが今別紙の 8-1-1 と別紙の 8-1-2 とありますので、こちら、本日説明した内容を別紙の 8-1-3 として、
0:22:02	追加させていただきたく思いますのでよろしくお願いします。以上です。規制庁の水田です。別紙 8 の方に書いていただくことをよろしくお願いいたしますというのとあと 1 個ずつのこのカット回数のイメージの図なんですけれども、
0:22:16	RHRフラッシュ対策導入と前、導入前の導入をカタームキーワ実際
0:22:25	変わると思うんですよ。
0:22:27	図としては逆にこの図だと一直線のねあの対策しても対策対策前と前後でどっちも同じっていうふうに取り取れるんでその図はちょっと修正、修正していただければなというふうに思っております。
0:22:41	九州電力のセンミョウです。今のご質問はRHRフラッシュ対策の導入前と導入後の、ちょっと色見づらいですけど赤線と青線のことだと思うんですけども、
0:22:54	カトウ改正としては、想定するカトウ回数としてはですね、RHRの対プラス対策の導入前、導入後で、
0:23:04	変わるものではございませんで、今おっしゃられているのは、当然そのRHRフラッシュ対策の導入前後で変わるものがあると思うんですけどそれはですね、
0:23:17	この過渡回数に変化するものではございませんで、実際にはカトウ 1 回に対するUfチーが変更になります。
0:23:29	当会 5 資料の 5 ページで言いますと、サンゴのフォーマットで、の空いてる書いております。あと回数のところから、
0:23:42	F値を算出するところにちょっと、記載しているんですけども、カトウ 1 回に対するAというF値が、フラッシュ対策の導入前と導入後で異なっております、
0:23:54	当然導入後の方が、温度変化とかが緩やかなので、かといっかいに対するエグチ が小さくなります。なので、RHR+対策導入前と導入後で想定するカトウの回数としては、

0:24:09	今お示したところは同じでございます、それを最終的に口を出すときに、本来であれば、土肥以下と1回に対する誘致が異なるというところで、
0:24:20	そこで違いが出てきます。ただですね、評価におきましては、保守的にですね、カトウ1回に対するエグチは、RHRフラッシュ対策導入前の値で、日算出してください安全側にですね算出しておりますので、
0:24:37	結果としてですねRHR+対策導入と前後で、特段その計算上変わるものはございませんので、ちょっとそこはこの建て替え数のイメージとしてはですね、
0:24:49	この青線と赤線はまっすぐ直線的に、何ら変わるものではないと思っております。以上です。
0:25:45	規制庁のミズタです回数自体は変わらないことは承知しました。そのフラッシュ対策で、前後で温度温度差が変わることですねUFJの
0:25:56	その1で、に影響があるという素行はこの図ちょっと何と読み取れないのでそういったな熱サイクルの違いがどう
0:26:06	フラッシュ対策前後でどう変わるかといったイメージも、イメージの説明があると良いのかなというふうに思っております。
0:26:15	はい。九州電力のセンミョウです。ご指摘ありがとうございます。今、こちらの本日説明した内容、ワードのちょっと資料には、そここのところが記載がされてございませんので、
0:26:31	RHRフラッシュ対策の導入前後でUF値が異なるけれども、今フラッシュアンゼンガワニですね、フラッシュ前の
0:26:43	うちで算出しているというところをですね、わかるように、こちら補足説明資料に落とし込む時に説明も加えた形で提出したいと思えます。
0:26:56	以上です。
0:27:08	規制庁の水谷さん温度差でそのUF値が変革変化するというのがしっかりわかるような記載にさせていただければというふうに思っておりますのでよろしく願います。はい。
0:27:19	はい。九州電力のセンミョウです承知いたしました。
0:27:23	規制庁の水田です続け、ちょっと確認なんですけれども右肩5パワポ資料5ページで、そのカトウ運転状態が起動と停止と一次系漏えい試験。
0:27:34	この三つになってますけれども、教えて欲しいんですけどここって改造とか設計上の耐圧試験ってのは含まないですか。
0:27:51	少々お待ちください。
0:29:53	九州電力のセンミョウです。
0:29:56	こちらのバイパスラインのについての例えば検査等にだと思えますけれども、こちら例えば配管を改造するにあたって当然、市況開始前に検査で確認することになりますけれども、
0:30:14	その確認につきましては、そういう一次系の漏えい試験RFSの漏えい検査等で併せて確認をすることになりますので、

0:30:28	こちらの1次系漏えい試験の中で確認ができているものと考えてございます。以上です。
0:30:37	全然規制庁の高野ですが、よろしいでしょうか。今、溶接IIされた時に最高使用圧力の1.1倍で、
0:30:49	内圧試験をやっているというのと、の、それが一体どのくらいの優勢時ファクターになるのというのを、
0:30:57	1回しかやらないから教えてもらえればいい、ありがたいかなと思ってます。
0:31:48	九州電力の清宮です。今のお話設計した時に製作時の耐圧試験の話だと思っんですけども、耐圧試験で確かに圧力はかかるんですけども、
0:32:02	真似通は実機の条件とはまた異なるとは思っておりまして、そういった
0:32:13	その効果がどれぐらいか、示すことと、そういう趣旨なんでしょうか。
0:32:21	はい。何て言うんですか。一時漏えい試験は運転圧でやってるはずですね、データはツジ検定、最高使用圧力。
0:32:32	もう1.1倍というご規定になってますので、その1回がどのくらいの優勢時ファクターになるというのが、もしこれ足したら、企画今8.0.8何ぼですよ。
0:32:44	優勢時ファクター60年時点で、
0:32:49	それでも、全くその1を超えないよというのを、わかるようにしていただければと思ってます。
0:34:03	九州電力のセンミョウです。ちょっと数字としては持ち合わせてはいないんですけども、介護資料の5ページ目の、
0:34:15	今度1階に対するUF値というのが、記載してございまして、そのAとかコウノに対する1階に対するフジイ、階数をかけて、累積係数、
0:34:30	算出することになります。チラー、例えば設計時の耐圧試験の時にどれぐらいオノユフ値が上昇するかということLower。
0:34:42	示された示しではないんですけども、
0:34:45	ただ圧力は1.1倍形ですけど温度ってこの条件は多分十分低いかと思っってます。その時のU1カトウ1回に対するUF値が、
0:34:57	どれぐらいかっていうのは、圧力条件も、タカダタカダかと言ってあれですけど1.1倍で応力的に、非常に大きな応力が
0:35:09	かかるものではないと思っまして、その時に対するHが例えば例えばなんですけど、起動時、1回当たりの2倍とかそういう漏えい試験時の2倍とか、
0:35:21	取ったとしてもですね。
0:35:23	ぱり、
0:35:26	こととして、そのかけたときには、カタカイ数はそれは1回なので、掛けても、この数gをカトウ1回に対するUHがマイナス3乗のオーダーですので、

0:35:38	1回を足し合わせたとしても、十分今の累積数に、そんなに大きく効いてくるものではないということは、認識できていると思います。
0:35:51	回答になってございますでしょうか。
0:35:55	はい。規制庁高野です。私もその1回だけだからそんなに行くわけないっていうのは、
0:36:04	理解はできるんですけど、最高主圧力よう運転ツーループじゃないよねということの1.1倍となると一体どのくらいなのかなというのが、ちょっと数字的にあったらありがたいなと思ってちょっとお聞きしました。
0:36:32	ありがとうございます。九州電力のセンミヨウです。ありがとうございます。オーダーとしてはそ、ちょっと
0:36:42	ご認識はいただいているということなんですけれども、ちょっと設計時のその耐圧試験1回当たりのカトウアノyouエグチ というのはちょっと持ち合わせてございません。
0:36:54	ので、ちょっと持ち、今お示しするものがないというのが回答となります。
0:37:02	以上です。
0:37:05	はい。規制庁高野です。了解しました。
0:37:07	それともう一つなんですけれども、今映してもらってるナカノ02という平均過渡回数、
0:37:17	その分母、
0:37:20	一体何になるのかというので、なぜかという、自動と一時漏えい。
0:37:28	治験の
0:37:29	数値が違っている。
0:37:34	ますので、要は分母は一体何かというのわかるようにこの資料の中に示していただくとありがたいです。
0:37:47	九州電力のセンミヨウです。こちらですね、平均過渡回数の起動停止、一次系の漏えい試験につきましては、
0:37:59	ちょっと資料はあれなんですけどこちらですね低サイクル疲労の中でも、他の機器のカトウアノを、累積疲労累積係数を算出した時にも同じ数値を
0:38:14	使用してございまして、具体的にはですね、低サイクル疲労の
0:38:20	別紙の1になります。
0:38:24	今資料上はですね、記載してございます通り、この②番の平均過渡回数につきましては、低サイクル疲労の後ろの別紙の1にですね、
0:38:36	同様にですね、同じ数値がございましてちょっとそちらのちょっと引用する形で、
0:38:47	同じ数値を使っていますということで記載してございます。で、
0:38:52	その分母、平均過渡回数を求める際の分母というのが、というのは、
0:38:59	こちら平均過渡回数は未取替機器の1年間当たりの過渡回数ということで、2019年3月までの実績をその期間で除した値ということで、ただ長期停止期間を除くということで、

0:39:12	年数としてはですね、20 年を、で除した値になってございます。
0:39:21	低サイクル疲労も、補足説明資料 1 にですね、それぞれ起動停止等のですね
0:39:32	平均過渡回数を記載してございまして、そこにはベッショカトウも含まれてございましてそれも考慮した形となっております。以上です。
0:39:43	この下、規制庁コウノですわかりました。別紙 1 の方、確認させていただきます。それともう一つなんですけれど、この合流部って、要は評価点は一体どこになるんでしょうか。
0:39:57	要は外面なんですか内面なんですかと。
0:40:02	少々お待ちください。
0:40:19	九州電力のセンミョウです。評価してるのは合流部の内面になります。
0:40:24	そうしますと、これ環境疲労も考慮されてるという理解でよろしいですか。
0:40:49	少々お待ちください。
0:41:44	九州電力のセンミョウです。今お示している疲労評価の工作臨時疲労の評価につきましては、環境疲労はおそらく含まれてないと、思います。
0:42:00	はい。以上です。
0:42:05	うん。
0:42:06	規制庁今野です。
0:42:09	何て言うんすか。水に接スルーと厚労で環境疲労を考慮すると、
0:42:19	優勢時ファクターが増えるようなイメージを私持ってるんですけど。
0:42:25	そこは大丈夫ですよねというのを、
0:42:29	確認です。はい。
0:42:32	はい。コメントありがとうございますこちらもちよっと、もう 1 回、もう一度ですねこちら確認いたしまして
0:42:42	回答したいと思います。
0:42:45	はい。規制庁高野です。よろしく願いいたします。
0:42:50	私から以上です。
0:43:04	規制庁フジカワでその回答って次 1 回になりますそれから補足説明資料。
0:43:11	今日のコメント踏まえて修正していただくと思いますけど素行がポイントリストに何らか回答作って書いてもらう、そういう形になりますか。
0:43:34	九州電力のセンミョウです。こちら、今の環境疲労の話は、ちよっと本日いただいたコメントということで、
0:43:44	コメントリストに起こしてコメントリストの形で回答させていただこうと思います。はい、わかりました。じゃあそれでもし何かまたさらに何かってなったらヒアリングやろうかなと思います。
0:44:00	そうですね。あとは、
0:44:02	あとこのてさえとこうサイクル疲労のこの関係で何か質問コメントありますか。

0:44:10	規制庁は大丈夫ですかね。はい。この関係九州電力さんから何か確認等ありますか。
0:44:21	はい。九州電力のセンミョウです。特にございません。はい、わかりました。
0:44:27	ちょっとつ続いてというか、
0:44:29	前回会合が一応、これまでの議論すべきところは一応一段落っていうふうな形になって今、多分補正の準備とかされてるかなと思うんですけど、ちょっと
0:44:43	他の先行のプラントとかと比較して、ちょっと
0:44:50	はい。
0:44:50	えーとですね今ほう素、評価章のところ、こちらでも確認してましてちょっと何か、
0:44:59	記載は足りないかなっていうところがあるのでちょっと、
0:45:03	何点か言わせていただきます。
0:45:08	取りMOX燃料の関係で、
0:45:11	4、本冊の4ページのところなんですけど、ここに発電所の主要な仕様っていうのがあって、そこに燃料、
0:45:23	そして低濃縮ウランだけ書かれてるんですよこれが。
0:45:28	多分MOXも含まれると思うんでそこは多分書いてもらった方がいいのかなというのがあります。
0:45:41	九州電力の清宮です。承知しました本冊、4の発電所の主要仕様のところと認識いたしました。
0:45:52	はい。
0:45:54	は、
0:45:54	藤はちょっと待ってくださいね。
0:46:32	あとちょっと記載の適正化カーみたいなちょっと、
0:46:35	中途半端になるんですけど
0:46:38	中性子照射脆化アノ原子炉容器の技術評価書で、監視試験の結果っていうのは、彼一覧表で書かれてるかと思うんですけど、評価書だと何年何月にやったっていうのがちょっと見えなくて、補足見れば書いてあるんですけど、そこも
0:46:55	記載の適正化という観点で書いてもらった方が適切かなというふうに考えています。
0:47:14	あとですねえとか、九州電力生命です。ご指摘いただいたのは、
0:47:23	原子炉容器の河津 試験への結果のところで、監視試験いつ取り出したかっていうのが明確になってないというそういった趣旨でしょうか。そうです。
0:47:34	わかりました確かに補足くう等ちょっと記載の整合というかちょっと程度がずれてますのでそちらは反映させていただきたいと思います。はい。お願いします。
0:47:51	あとこれ確認なんですけど今、

0:47:55	とその容器とか等炉内構造物の中性子照射量の算出通のところであそこってMOX燃料を、
0:48:06	入ってる入ってないって話は評価書上は書いてなかったですよ、確か。
0:48:14	はい。九州電力の清宮です。評価書上ははい。記載してございませんその認識で、であっております。
0:49:08	えっとですね、IASCC能登厚労の会合とかでも、所なんつうかMOX燃料を考慮して、
0:49:20	装荷した後はそれだけ考慮して照射量変わってるっていう議論もありましたのでそこは、
0:49:28	評価書上も入ってもらうのがいいのかなと、今多分、健全性評価のところ60年時点で、幾つになります。
0:49:40	多分設備利用率100%等と仮定して算出とかしか書かれてなかったかなと思うのでそこに、
0:49:49	今MOXの影響も考慮している旨がわかるようにしていただくと多分、
0:49:55	この会合の議論とか、
0:49:57	適切に反映されたことになるのかなと思うんですけど。
0:50:01	いかがでしょうか。
0:50:04	はい。九州電力のセンミョウです。承知しました今、確かに技術評価書、RVのところ、あと、炉内構造物のところ設備利用率については言及はあるんですけども、
0:50:18	モック数の影響の記載は、ちょっと記載が足りてございませんので、ちょっとそこは、MOXの影響をちゃんと考慮して1.2で考慮して、
0:50:32	算出しているというのがわかるように、修正をさせていただきたいと思えます。以上です。
0:50:38	はい。よろしく申し上げます。
0:51:51	規制庁フジカワちょっとだけお待ちください。
0:53:41	規制庁藤川です。衛藤。一応以上になります。最初にタテよりアノ会合で議論したコンクリートとかIASCCの他のところとかですねあそこは適切に補正のところに反映していただければと思います。
0:53:57	他に規制庁側から何か追加はありますか。大丈夫ですかね。
0:54:06	ちょっと待ってください。
0:54:23	はい。九州電力さんから何かありますか。
0:54:27	はい。九州電力の仙波です。九州電力から特にございません。はい。ありがとうございます。
0:54:34	それでは本日のヒアリング以上で終了したいと思います。ありがとうございます。
0:54:40	ありがとうございました。